令和4年度 第3回学校運営協議会 議事のまとめ

令和5年1月26日（木）15:30 @会議室

出席者

協議委員：川村幸治、早坂三郎、寺野雅之、渡邊哲朗、村井沢子（欠席：綿世良一）

本校委員：藤原清隆、西岡宏二、松井くみ子、紙本享介、野崎龍、西本敦史、木原義憲、

下村真也、吉川力、南花子、平岡克郭、國見将、大東靖央、中岩雄基、安田亜由

記録：西本敦史

1. 挨拶（校長）

年が明けて、学級閉鎖が出ている状況。

3年生は最後のテスト、生徒たちは非常に頑張っている。

2. 本校教育の現状についての説明

①令和4年度学校経営計画の総括

*自己評価について

○授業改善、学校教育自己診断「授業がわかりやすい」の部分は高い達成率

→教員の授業改善のたまものだと考えている。無気力傾向の生徒にむけて粘り強く関わった成果で、生徒の学びたい意欲をよく引き出した

△成績不振者対策に関しては、なかなか達成できていない現状（(2)のウ）

△きめ細やかな指導について学校教育自己診断では高い肯定率となっているものの、進級率の上昇という結果には現れていない。今後の課題であると認識している。学校に来さえすればという生徒が沢山いる。

○進路指導については、学校紹介就職希望者の内定率100%を達成した。進路未決定者の割合は、本日現在5%台となっている。教員の丁寧な指導が実を結んでいる。

②令和5年度学校経営計画案について

*目標においては、令和4年度の項目については、基本的に継続的に取り組んでいきたいと考えている。

*令和4年度からの変更点は、部活動の活性化（入部率の上昇）については、閉校を控えている状況で単純には難しい。違った形の部活動を模索していく必要がある。

*進級率の上昇については、継続的に取り組む方針。

*教員の資質の向上に取り組む。

③令和4年度学校教育自己診断の結果について

- * [生徒] 最大増加は、設問17の「文化祭は楽しく行われるように工夫されている」であった。（肯定率89%）これは、3年生(46期生)がとても盛り上げてくれたことが要因。
- * [生徒] 設問9の「担任以外にも気軽に相談できる教員がいる」、設問10の「先生は、いじめなど私たちが困ったことがあれば真剣に対応してくれる」が増加しているが、これは保健室の貢献度が大きい。
- * [教職員] 設問8の「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。」が、昨年度から大幅に数字を下げているが、昨年度中に検討をかなり重ねたこととの比較で下がっているのではないか。
- * [教職員] 設問16の「生徒による問題行動（いじめやその疑い等も含む）が起こった際、組織的に対応できる体制が整っている。」については、指導について後手にまわるなどややバタついた部分があった。
- * [教職員] 設問17の「本校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。」は増加している。
- * [保護者] 設問11の「学校の生徒指導の方針には共感できる」、設問12の「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」に関しては、経年の変化をみるのではなく、現状としていい傾向だと考えている。
- * [保護者] 設問17「子どもは文化祭を楽しみにしている」の数値について、今年度の行事の盛り上がりが影響していると考えている。
- * [保護者] の設問25「学校の施設・設備は満足できる」の数値について、学校の施設設備の満足度はかなり上がっていると考えている。
※ [保護者] においては、3学年の肯定回答100%が目立っている。

④令和4年度第2回授業アンケートの結果について

- * 肯定率は第1回とほぼ変わらず高い水準である。設問8・9に関しては上がり続けている。肯定率（「ややあてはまる」「よくあてはまる」）は変わっていないが、「よくあてはまる」の割合が高まっている。「ややあてはまる」と回答していた生徒が「よくあてはまる」に転化している。これは、教員の授業改善の成果がでていと認識している。

<休憩>

3. 協議

テーマ：本校教育の全般について

議長：（川村幸治）

協議委員

学校教育自己診断について、総じて高い数値に現れているのはすごいと感じる。初任者はどう感じているか。

初任者1

授業をしていて感じるのは、現在の3年生について、この3年で「人前に出ることが怖くなくなった」という感想を書く生徒もおり、茨田高校で成長したと感じる。

協議委員

そういった点が進路指導の成果につながっているのではないか。1・2年生についてはどうか。

初任者1

なかなか積極的ではない。発表等を促してもとりあえず否定から入る生徒が多い。コミュニケーションを積み重ねていくことで、自信も付き、楽しく感じられるのではないか。

協議委員

本当の教育現場は初めてということで、どうだったか。

初任者2

教員経験はほとんどない状態だったが、3年生はよく授業を受けてくれた。学習が苦手な生徒が多い中ではあるが、積極的にコミュニケーションをとってくれる生徒が多く、生徒はよく頑張ってくれた。

協議委員

就職が多い茨田高校としての進路実感はどうか。

初任者2

学籍と社会に出る間の空白期間にはデメリットが大きい。生徒にしっかり理解させながら背中を押してやるのが重要だと感じる。

協議委員

進路指導主事としては、進路状況をどう考えているか。

本校委員

数年ぶりに年内に内定が多く決まっている。3学年の生徒たちは、かなりの結束力がある。それが生徒同士いい影響を与えあっているのではないかと感じる。

協議委員

進路保障は、これからの茨田高校にとっては重要なこと。最後まで生徒の心に残る学校生活をさせてあげてほしい。

協議委員

就職については、生徒個々の力が大きいと考えている。集団の力で個々の力が高められている部分は確かにある。学校活動で生徒の前向きなモチベーションが大きく変わってくる。同じような生徒でも、それぞれ学年の色が出る。教員集団との兼ね合いもあるように感じる。「人前に出るのが怖くなくなった」というのは、学校生活で自信を深めていることを示していると感じる。

部活動の活性化については、特定の部活として維持することに拘らず、サークル活動のような形が有効ではないか。

協議委員

思い出に残る学校として茨田高校がなるように、26年前に茨田高校に着任したが、最後の最後に茨田高校としてよくなったのではないか。これからの茨田高校を盛り上げるには、どうしていけばいいと考えているか。

本校委員

教員も「どうすれば楽しめるのか」と、生徒と一緒に本気で考えながら取り組んだことで、生徒の心に残る文化祭となった。学習だけでなく、行事への取り組みもしっかりとやっていくことが重要だと感じている。

協議委員

生徒指導においては、生徒たちの傾向についてはどう感じているか。

本校委員

13年前は、やんちゃな生徒が多かったが、現在は非常に少ない。生徒指導事案については、SNSなど表に出ない問題行動が増えている傾向を感じる。

協議委員

生徒の内なる力に火を付けるポイントは、どのような部分なのか。

協議委員

先生様ではいけない。子どもたちには自信がない。自己有用感を生徒に感じさせることに

は、あの手この手を繰り出さなければならない。

問題行動等が多いと、それをする余裕がない。そんな中「先生様」ではなく、生徒との対話を重視した生徒指導を粘り強く続けていく必要を感じたため、コミュニケーションの取り組みを導入した。生徒の気持ちを受け止めて、粘り強く対応してきた成果が出ているように思う。本日学校教育自己診断のいい結果を見られてよかった。

協議委員

生徒本人の様子を振り返ると、入学までは頭ごなしの指導に反発するところもあったが、入学後はいい意味で「放置してくれている」と感じる。自分を否定される不安を、茨田高校では感じていないようで、3年間「学校へ行きたくない」という言葉を全く聞かなかった。特に先生に対しての不満は聞いたことがない。安心感をもって学校生活を送っているようだ。

また、別の生徒は、人間関係の愚痴を聴いてあげる役割を担っているらしい。楽しくやっているようだ。

協議委員

学校はだいたい、女子集団の雰囲気がいい学年は自然に良くなる傾向が、現実としてある。ここ4年協議委員をしていて感じるが、学校の取り組み方に前向きな推進力を感じるようになった。外向きへというより学校内部の改善が進んだ部分はあるのではないか。

協議委員

教育は、「これでいい」というものはない。「授業なくして教育なし、教育なくして指導なし、指導なくして人間形成なし」という言葉がある。授業は伝達ではない。生徒を感化させる授業が重要。その生徒の人生に影響をあたえられたかを、教員自身が追求しなければならない。生徒の前向きなモチベーションをどう起こすか。方程式はない。人と人の関わりのなかでしか生まれえないものである。

生徒獲得に努力してきた茨田高校。茨田を巣立った生徒の心にいつもまでも残る学校であってほしい。茨田高校で得たものは絶対に無駄にはならないと思う。

4. 謝辞（校長）

心に残る学校を作っていくことが、我々の目標だと感じる。今年度は、コミュニケーションの茨田高校であるという視点が欠けていた部分はなかったかと反省しているところがある。しっかりと振り返って、今後教職員一丸全力で取り組んでいく。